



## 発達コホート研究

ヒトの発達や学習の過程は非線形で、多様な道筋と質的な転換期が存在します。この発達・学習の過程におけるメカニズムを解明することは、多くの学術的分野にとって有意義な知見を提供します。当センターでは、主に附属小・中学校と連携し、学童期（小学3～5年生）および思春期（小学6～中学2年生）を対象としたきめ細かなコホート研究データ（質問紙や心理検査など）を蓄積しており、その解析から発達・学習過程における普遍的な質的転換期の特性を検討します。得られた知見は積極的に保育・教育・療育の現場と共有し、地域の発達支援へと還元していきます。

## LD等専門教員研修



鳥取県教育委員会では2000年度より、発達障害のある児童・生徒の理解と対応について専門的知識と技能を有する教員を養成するために、全国の教員養成系大学へ派遣する「LD等専門員研修制度」を設けてきました。鳥取大学地域学部においても2004年度より受け入れを行ってきましたが、2006年度より学校教育法の改正に伴い、巡回相談員に加えて通級指導教室の担当ができる技量の修得をお願いしたいという要請が加わりました。そこで2014年度より当センターが学内のコーディネーターおよび研修責任者となって年間300時間を超える研修プログラムを企画・運営し、発達障害に詳しいプロ教師の育成に協力しています。



## これまでの研究成果

### 鳥取大学方式による平仮名音読の評価と指導

平成26年度に鳥取市の全小学校において、鳥取大学方式による平仮名音読の評価と指導を開始し、これに用いる音読検査を新たに開発しました。

### 通常学級における授業の工夫例

鳥取大学が文部科学省より受託した「平成26年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業（発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業）」の一環として、全国の自治体の教育委員会（町村は除く）から寄せられた「発達障害のある児童生徒の特性を踏まえた通常学級における授業の工夫」の一覧を作成しました。

### 鳥取大学附属幼稚園との連携



鳥取大学附属幼稚園では、大学の教員と共同で継続して研究発表会を開催しています。その研究成果を基盤として実施されている附属幼稚園の保育について紹介するリーフレットを作成しました。ともしれば誤解されがちな「自由保育」の本当の意味と価値を理解する上で、有用な情報の1つになります。